

ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo **638**

2025.6



2025 年 6 月 1 日 (毎月発行) 定価 200 円 638 号通巻第 638 号第 55 巻第 6 号発行/新建築家技術者集団東京支部
発行人／杉山昇 〒162-080 東京都新宿区山吹町 361 番地 誠志堂ビル 3 階 tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9811
ホームページ <https://nu-ae.com/tokyo/> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

今月の表紙 提供：山下千佳

4月21日に国立新美術館で開催されていた「リビング・モダニティ展」に行きました。晴天に恵まれ、青空と新緑がきれいでした。

20世紀初頭から1970年代にかけて、建築家たちが現実の制約のなかで懸命に問い続けた「心地よい空間」は、今の時代にも問われていると気づく展示でした。

03	「リビング・モダニティ展」鑑賞と学習・交流会	山下千佳
04	能登復興支援のサポート記	江國智洋
05	能登半島地震・豪雨の被災地訪問	山下千佳
06	鋸屋根に魅せられて	吉田敬子
08	アジアニュース No.29	T N
10	「建築とまちづくりセミナーin 仙台」お知らせ	

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎05/28 水 18:30 第2回常任幹事会 @新建事務所
- ◎06/12 木 19:00 事前勉強会「中野ブロードウェイの歴史と魅力」 @ZOOM
- ◎06/14 土 13:30 中野ブロードウェイの見学会 @ブロードウェイ入口集合
「中野ブロードウェイ」と今日の都市再開発を考える
- ◎06/23 月 16:00 東京の課題・問題 懇談会（拡大常任幹事会） @新建事務所

全国

- ◎05/23 金 19:00 新建懇談会「住まいは人権」話題提供：中島明子氏 @ZOOM
- ◎06/11 水 18:30 京都支部 タイを語る会 第2回 @ハートピア京都+ZOOM
「コミュニティの徹底的な自己決定で進める スラム改善事業-タイのバーン・マンコン事業」
- ◎06/19 木 14:00 災害復興支援会議 打ち合わせ @新建事務所
- ◎09/ 全国幹事会
- ◎10/25 土-26 日 建築とまちづくりセミナーin 仙台
- ◎11/29 土 全国大会

会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆06/08 日 13:30 住まいは人権デーの集い @練馬 光が丘区民センター3階 (坂庭)
- ◆07/26 土-27 日 第67回自治体学校 in 東京 @日本教育会館&明治大学 (千代崎)
- ◆11/08 土 全国災対連 災害被災地交流集会 @全労連会館+ZOOM (千代崎)
- ◆11/15 土 憲法フォークジャンボリー (村上) @滝野川会館

お詫び

ホワイエに連載していただいている吉田敬子さんの「鋸屋根に魅せられて」の掲載について
前回の5月号に4月号と同じ内容を掲載してしまいました。吉田さんからは、新しい原稿が寄せられていました。編集・校正の段階で気づかずに発行してしまいました。申し訳ありません。



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.org.jp

4月21日（月）に「リビング・モダニティ展 鑑賞と学習会と交流会」をおこないました。

【 第1部：「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」 鑑賞 】

10時に国立新美術館に集まった6名で鑑賞しました。モダニズム住宅の進化を7つの視点（衛生・素材・窓・キッチン・調度・メディア・ランドスケープ）から再検証。写真・図面・家具・模型などの展示を通じて、建築の時代的背景と生活者の視点を深く理解する機会となりました。

【 第2部：学習会「建築と職能とAI」 】

18時30分から新建事務所で、大阪支部の山口達也さんに「建築と職能とAI」と題して、これからのAIの展開における建築業界への影響をベースにした内容をプレゼンと資料をもとに話してもらいました。

参加者：東京支部の江国智洋さん・佐藤未来さん・澤田大樹さん・柳澤泰博さん・伊藤寛明さん・千代崎一夫さん・岡田昭人さん・山下千佳と長野智雄さん、大阪支部の山口さんと製図試験.comの生徒さん新井光一郎さん・畠塚滋人さん、12名

山口氏によるプレゼンテーションでは、AIが建築設計・教育・施工に与える影響を多角的に分析がされ、特に以下の点が印象的でした。

- * 建築は最先端技術ではないが、暮らしに密接に関わる希少な業務であること
- * AIが進化する中で、「餌付け（学習データの提供）」の役割と限界
- * 建築士の職能が、設計のPDCAの「C（確認）」と「A（改善）」をAIが担うことで変化する未来像
- * 将来的に、AIによるホワイトカラー業務の代替が進行する可能性
- * 一方で、「顧客対応」「道楽としての建築」「コミュニティ形成」など、人間が担うべき部分は残り続けるという希望的視点

また、実際の活用例として、YouTube・BIM・製図試験.comなどの事例も紹介され、生成AIの具体的な利活用のヒントが得られました。

【 懇親会・意見交換 】

後半は軽くお酒を飲みながら、懇親を兼ねたディスカッションをおこないました。参加者からは「建築士のあり方を再定義するきっかけになった」「AIに奪われない職能とは何かを考えたい」などの声が上ががり、実りある学びと交流の場となりました。



5月15日(木)に、石川支部・杉山真さんが復興支援で関わっている輪島市門前町七浦(しつら)地区に行ってきました。七浦地区は、輪島市街地からも車で1時間近くかかり、金沢からだと2時間半くらいかかる海沿いの集落です。参加したメンバーは、群馬・新井さん、京都・久守さん、富山・富樫さん、東京・山下さん、江國と東京災対連・末延さん、現地では、石川・杉山さんと一緒に活動をしている辰巳さんの8名でした。

10時に金沢駅から車2台で出発、途中、志賀町海岸部にあるお寿司屋「西海丸」にて昼食後、七海公民館に到着したのは13:30でした。七浦地区再生会議の方が4人参加してくれて、意見交換を行うことができました。そのいくつかを紹介します。「七浦地区にはいくつかの集落を合わせて200世帯ほど住んでいたが、今は仮設住宅を入れても150世帯くらいしか住んでいない。高齢の単身者は、輪島市街地や金沢などの息子や娘の所に行ってしまった方も多い。半壊以上の判定で公費解体ができるので、どんどん公費解体されていっている。市街地に住む子どもたちは、いずれ親が亡くなった時に古い家をどうするか悩んでいたが、公費解体で全額出るのであれば、この機会に壊してもらえるよう、何度も判定調査を依頼している人もいる。」といった状況を聞くことができました。

これに対して「このままだと七浦のまちが無くなってしまおう、と数人が七浦再生会議を立ち上げてまちの再生を検討してきている。」それに対して、金沢の設計事務所の杉山さんらがまち再生のためのサポートをしている状況のようでした。ただ、副知事が賛同してくれてはいるものの、県はこの支援費用を出してくれない状況です。現在ボランティアで支援していて、このような支援活動への助成金が無いか等々、新建災害復興支援会議でもこれまでリモート会議などを通して、働きかけをしてきました。

七浦地区再生会議のメンバーは、高齢者が多い中で、1人30歳代の若い女性が、この震災を機に地元に戻ってきて活動していました。「このままだと七浦が無くなってしまおう、トンネルを抜けて七浦地区に入ったら、広々としたお花畑にしたい」と農業を学び戻ってきたのでした。ただ、小学校も中学校も、保育園も無くなり(隣町までスクールバス)、行政出張所も無く、診療所も月に1回ドクターが来てくれた時だけ開く、買い物ができるお店もない、昔は漁業と農業のまちだったが、漁協は10年ほど前に解散し、畑を少しだけやっているといった状態で、どのように再生していくか、限界集落と呼ばれる悩ましい現実がありました。事務局長からは、この隆起した海を逆手にとったジオパーク構想で観光に力を入れるといった発想が示されました。『復興』、その必要性も含めて本当に考えさせられます。



木造の仮設住宅 44 戸



七浦再生会議の皆さんとの意見交換

5月16日（金）に全国災対連の「能登半島地震・豪雨被災地調査活動」がおこなわれました。前日に参加したメンバーに加えて、富山支部の上梅澤さん、小森さん、中野さんが加わり、11名になりました。全体では全国災対連に加盟する組織等から17名が参加（全労連2名、新建11名、農民連1名、東京災対連1名、石川災対連1名、被災者支援共同センター1名）となりました。

能登半島地震から1年4ヶ月、奥能登豪雨から7カ月が経過し、復旧・復興の遅れのもとで、医療現場、仮設住宅、農業等の様々な立場の現状を調査し、今後の被災者支援のとりくみにいかしていくことを目的とし現地入りしました。限られた時間のなかで、羽咋市にある被災者支援共同センターで調査団結団式を行い、輪島市内にある輪島診療所で医療現場についてお話を伺いました。さらにつながりのある仮設住宅に入居し農業をされている方からお話を伺い、その後、山間部で米農家をしている農民連会員の方からお話を伺い、被害にあった田んぼを見学しました。

輪島診療所の上濱事務長からは、「震災後、幸いにも建物が無事であったためすぐに診療を開始できた。今では利用者が震災前と比べ8割程戻っている。職員の半分程が仮設住宅にいますが、すぐに入居できない方、遠方でないと入れなかった方もいる。医師2名はいずれも被災して、一人は現在も診療所に寝泊まりして頑張って診療をしている。仮設住宅に入居できず仕事を辞め金沢市に移る人もいる。身近な要望として、道路の状態が悪いため事故や転倒が起こりやすいので、整備をしてもらいたい。また家屋等の解体後に土地にガラス片や小石が残り、撤去まで業者がやってくれないことに困っている。」と述べました。

農業をしているお二人の方からの話も伺いました。「地震で家屋が全壊し、解体中に水害で流された。今は近くの仮設住宅で生活をしている。助成金で再建することは可能だが、金沢市内で建てた方が安い。複数のハウスメーカーに聞いたが、輪島市内は断られるか、輪島市だからということで2～300万円上乗せになる。」「水害の影響がひどく、田んぼが土砂であぜ道と同じ高さになった。機械でも手が付けられない。水の通る範囲で田んぼをやっている。自治体は家屋の解体に重点を置いていたが、道路の整備を先だと感じた。解体先に到着するまでにかなりの時間を要した。」とのことでした。

その後、山間部にある米農家に行きました。地震の影響で地面が隆起、地割れが起きたため、高さが均一になるように田んぼを細かく分ける工夫をしていました。道中では、崩れたままになっていて危険な道や、田んぼの中で作業する工事車両がありました。土砂を積んだ大きなトラックが往来しており、まだまだ復旧・復興には時間がかかりそうでした。

当初予定していた仮設住宅の視察と住民の方のお話を聞くことができず残念でした。今回、輪島診療所の看護師さんから「建物の被害がなかったのが何よりでした」と言われ、とてもうれしかったです。診療所の設計は新建の元会員の永山孝一さんです。（報告の一部は全国災対連のニュースを引用）



鋸屋根に魅せられて

鹿児島県・大島紬①写真家 吉田敬子

九州新幹線の開業に合わせて、鹿児島中央駅に隣接した大型駅ビルの撮影で鹿児島に来ていました。仕事を調整し大島紬の博物館「奄美の里」を訪ねてきました。指宿枕崎線いぶすきまくらぎせんに乗り谷山駅下車の予定でした。ところが車中から14連の鋸屋根（カクイわた）を発見した私は、途中下車でした。（前回ホワイエ掲載）まるで宝くじ当選のような気分のまま、なんとか限られた時間をうまく使い、谷山駅下車です。駅舎がモダンで可愛いと呟きながら、徒歩約15分「奄美の里」です。予想以上の大きな施設で、すべての見学は不可能なので、奄美生活資料館と染色工場、大島紬織り工程を見学しました。運営会社は藤絹織物株式会社の創業者・藤都喜エ門ふじときゑもんが出身地である「奄美の原風景を鹿児島に再現したい」という思いを馳せこの地に1968年「奄美の里」を作りました。都喜エ門は「紬一つをわが命とぞする」を人生哲学として70有余年を大島紬と共に歩みました。大島紬の見せる見学工場、蘇鉄やガジュマルなど奄美の植物を植えた奄美庭園、そこに都喜エ門の生れ育った9尺2間の家を2棟配置しました。高倉たかくらと粗末な、茅葺の佇まい、それは私のまかないを消して離れることのない私のふるさと、奄美大島の風景なのです。でも私は、私のふるさと、私の生れ育った埴生の宿きょうじに限りない愛着と矜持きやうぢとを持っています。それは何よりも世界に誇り得る本場大島紬はこの風土のなかで創り出され、はぐくまれてきたからなのです。藤都喜エ門とありました。

都喜エ門の埴生の宿：トゴラ（居間・茶の間・食事場所）



大島紬は 1300 年の歴史を受け継ぎ伝承してきた職人たちと 30 にもおよぶ工程数は熟練と経験を要し長い月日がかかる。大島紬をつくるには大変多くのことを順序よくしなければなりません。大島紬のできるまでの工程図を見ても、なかなか理解できません。なのでおおまかな工程を紹介します。

〈1〉図案→〈2〉^{せいけい}整経→〈3〉^{のりば}糊張り
〈4〉^{がらじ}柄締め→〈5〉染色・テーチ木染
泥染め→〈6〉印入れ→〈7〉^{すりこみ}摺込
〈8〉^{むしろぜんかい}筵全解→〈9〉手織→〈10〉検査→〈11〉完成

織りの工程も^{たて}経と^{よこ}緯の細かい拵模様を正確に合わせながら、手で一つ一つ丹念に織り込んでいきます。7 cm ほど織ったら^{たていと}経糸をゆるめて糸を 1 本 1 本針で調整して絵柄を合わせていく。この工程の解説を聞き「奄美の里」が都喜衛門の世界に誇れる大島紬の伝承館であることを確認しました。こうなると現役の織元を訪ねて話を伺いたい。と出口に向かうと「お帰りですか？」と声を掛けられ「素晴らしい伝承館で感動しています。この辺に大島紬の織元はありますか？」と尋ねると「今はないけれど、車ですか？電車なら坂之上駅で降りて、^{のづ}野頭の亀井商店から児玉美術館へ行く途中あたりに織元があります。少し歩くかな」と情報をもらい谷山駅へ戻りました。再び指宿枕崎線に乗り、坂之上駅下車です。織元が鋸屋根なら最高と現地へ向かいました。次回に続く

写真上より谷山駅舎～奄美の里・生活資料館



ホーチミン紹介

私は、8年ほど前に、ホーチミン市を訪れました。ホーチミン市は、熱帯地域に属し、気温は、毎日35℃でした。VIETJO 記事のチョーロン市場は、中心部からは少し離れていますが、華人の居住区にある中国語が氾濫しているところにあります。活気が半端でないと感じました。暑い。

初めに私が訪れた中心部のベンタイ市場、南国風情、細長いビル、公衆トイレなどを紹介しておきます。

アジアニュースNo.29
(ベトナム中心) TN



以下は、最近の様子を VIETJO の記者が紹介しています。
(TN)

今週はベトナム人スタッフの Monme より、「チョー・ビン・タイ（チョー・ロン）市場」のお話です。

ホーチミン市の中心部から少し離れたところにあり、中華街として知られるチョー・ロン地区に位置するチョー・ビン・タイ（通称チョー・ロン=大きい市場の意）は、ベ



©Reatimes



©BIGBOY BKK



©Thanh Do

©Tran Chi Hieu



©Kun

©Sam w

ー・ビン・タイの魅力は、商品だけでなく、その活気ある雰囲気にもあります。市場内を歩くと、商人たちの元気な声や、交渉の声が響き渡ります。また、夜には市場周辺に多くの美味しいストリートフードの屋台が立ち並びます。

この市場は、ベトナムの文化や歴史を感じることができる素晴らしい場所だと思います。皆さんも、ここでのショッピングや食事を通じて、ホーチミン市・チョー・ロン地区の魅力を存分に楽しんでください。以上、VIETJO 記事

皆さんもホーチミン市を訪れたら、ぜひ立ち寄ってください。(TN)

Binh Tay Market

住所：57A Thap Muoi Street, Ward 2, District 6, Ho Chi Minh City, Vietnam



©許家誠

閑話休題

日本列島のサイズが、掲載されている写真を見つけたので、掲載してみました。

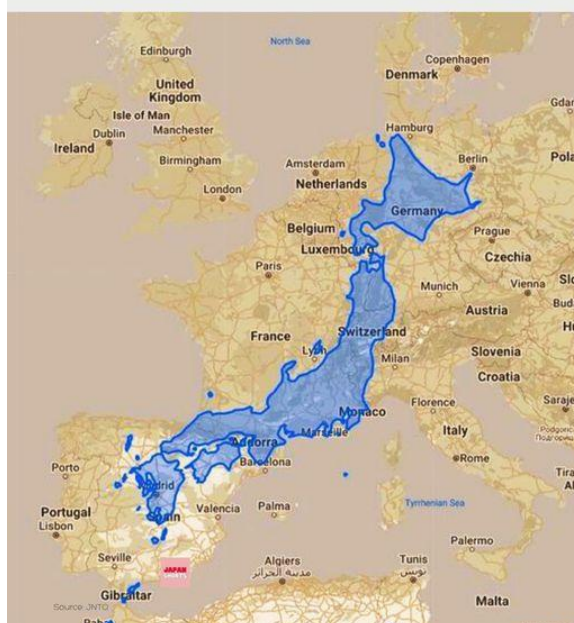
ヨーロッパ諸国と対比されていますが、意外と日本国土は、広い方なのだと、改めて感心しました。

江戸時代末期に、オランダ、イギリス、アメリカなどの諸国から永い眠りから起こされて、はや100年以上、大きな戦争経験を体験してきましたが、しっかり目が覚めたのかと国民として自覚しなければいけませんね。

トナム最大の卸売市場の一つです。この市場は、ホーチミン市の華人コミュニティの中心地としても知られ、多くの観光客や地元の人々で賑わっています。

市場は広大な敷地と多様な商品で有名です。市場内には、食品、衣料品、家庭用品、工芸品など、あらゆる商品が揃っています。特に、地元の珍しい食材を探すなら、この市場は絶好の場所です。 チョー・ロンは1928年に建設されたこの建物です。2016年末から約2年にわたる改修工事を経て、市場はよりきれいに、より人目を引くようになり、かつフランス植民地時代の建築様式と中国の伝統的なデザインが融合した独特の外観が以前のままだに維持されています。市場の中心には、大きな時計塔があり、その周りには色とりどりの屋台が並んでいます。 チョー

Size of Japan VS Europe



東日本大震災 14 年・能登半島地震から学ぶもの ～東南海トラフ地震に語り継ぐ～

「2025 建築とまちづくりセミナー in 仙台/～東南海トラフ地震に語り継ぐ～」をテーマに開催します。

1 日目は、東日本大震災で何が起きたか、14 年間を経て現場はどうなっているのか、という点の理解を深めたい。能登半島被災地に東日本大震災の知見が生かされているのか？その警鐘と全国へのメッセージともなります。今でも、困難な状況での復興にあること、被災者がどう立ち上がっているか、その再建・復興途上を専門家や市民は何を行うべきか、その展望を見出したいと考えます。

2 日目は、現地見学。沖積低地である仙台平野沿岸部の集落、東松島市の防災集団移転促進事業によるあおい団地、石巻市の震災遺構となった門脇小学校など、津波後の復興事業によって様々な災後を歩んできた現場に身を置いて考えたい。南海トラフが懸念される今、極めて重要な現状認識になると思われます。

■日時 2025 年 10 月 25 日（土）～26 日（日）

■会場 東北大学青葉山キャンパス 工学部 人間環境棟 101 教室

（仙台市青葉区 JR 仙台駅～地下鉄東西線仙台駅～15 分～青葉山駅 300m 徒歩 7 分）



仙台平野津波被災地/三本塚の皆様と活動する田澤ゼミ



東松島市防災集団移転促進事業のあおい団地



石巻市の震災遺構となった門脇小学校

1 日目 (10 月 25 日) 【講座と交流会】

●講座 13:20 ～ 17:00

コーディネーター 窪田 垂矢氏（東北大学大学院教授）

第 1 講座

東日本大震災復興から何を学ぶか

みやぎ震災研究センター

遠州 尋美 氏

第 2 講座

被災後の地域活動を支える地域コミュニティの経験知

－ 仙台市沿岸部の現地再建エリアの事例 －

東北芸術工科大学

田澤 紘子 氏

～～～ 休憩 ～～～

第 3 講座

被災地からの集団移転による新しいまちづくりは－

都市住宅とまちづくり研究会 杉山 昇 氏

第 4 講座

空き家の活用による持続可能な復興

巻 組

渡邊 亨子 氏

●交流会(各地で取り組む人達との交流)17:30～19:30

(みやぎ復興支援県民センター、能登地震支援会議等)

< 青葉山工学部生協食堂 DOCK/セミナー会場隣歩 3 分 >

< 駐車場: 21 時まで生協奥の警備室の指示で駐車できます >

2 日目 (10 月 26 日) 【現地視察】(8:30～17:30)

仙台井土荒浜～東松島あおい団地～石巻門脇など

3 日目 (10 月 27 日) オプション企画【リアス海岸視察】

南三陸、石巻十三浜を回って石巻駅で解散

共催 新建築家技術者集団 / 東北大学都市デザイン研究室

◆セミナー内容◆

◆第1日目 10月25日(土)

フシ企画 11:30 東北大学「エコラボ」見学会

見学会参加の方は人間環境棟 1 階ピロティ集合

●受 付 (12:30 ~) 会場:青葉山キャンパス人間環境棟 101 教室

●主催者挨拶 (13:20 ~ 13:30)

●第 1 講座 (13:30 ~ 14:00)

講 座 名:『東日本大震災復興から何を学ぶのか』

内 容: 東日本大震災復興の現場では、惨事便乗型巨大土木事業の隠れ蓑となった創造的復興と、被災者の生活再建に心を砕く、人間の復興とがせめぎ合った。前者を可能としたのは、過半を復興増税で賄う総額 32 兆円超の国丸抱え復興財源システムだった。

しかし能登地震被災地のネグレクトが示すように、南海トラフ巨大地震等不可避的巨大災害でその再現性は望めない。ならば私たちは何を継承するのか。ともに考えたい。

講 師: 遠州 尋美 みやぎ震災復興研究センター事務所長(元大阪経済大学教授)

えんしゅう ひろみ

●第 2 講座 (14:00~14:50)

講 座 名:『被災後の地域活動を支える地域コミュニティの経験知今後の課題』

内 容: 災害危険区域予定だったけれども指定されなかった井土集落において、今もマルシェや清掃など住まなくなった住民も参加し続けている意味、井戸まちづくり情報局の取組を報告する。

また、移転した方も含めて三本塚の地域再生に取り組みなどを報告する。

講 師: 田澤 紘子 東北芸術工科大学デザイン工学部 企画構想学科

たざわ ひろこ

(休 憩 10 分)

●第 3 講座 (15:00~15:40)

講 座 名:『被災地からの集団移転による新しいまちづくりはー』

内 容: 東松島市は沿岸部の各地区で大きな被害を受け、災害危険区域に指定された。海岸から遠い地域や山の上などに集団移転をすることになり、としまち研はその移転先のひとつである東矢本駅北地区(後に「あおい 1 ~ 3 丁目」)での新しいまちづくりのお手伝いをしました。いわば「コーポラティブ方式による日本一住みやすいまちづくり」を被災者=住む人主体で行って来ました。東松島市大曲地区の被災者が防災集団移転促進事業であおい地区の団地にどのような議論、住民参加と合意を工夫しながら移転した団地の今を報告する。

講 師: 杉山 昇 都市住宅とまちづくり研究会

すぎやま のぼる

●第 4 講座 (15:40~16:20)

講 座 名:『空き家の活用による持続可能な復興』

内 容: 被災地の空き家改修で支援者への賃貸活用、「巻組」を運営、被災地石巻市で絶望的条件の空き家を活用し、地域でアート思考人材を育てる事業スキーム、クリエイティブな人材が育つ環境を模索の経験を報告する。

講 師: 渡邊 亨子 株式会社 巻組代表取締役(石巻市)

わたなべ ひょうこ

●意見交換 (16:20~17:00)

司 会: 窪田 亜矢 東北大学大学院工学研究科教授(都市デザイン研究室 工学博士)

●交流会 17:30~19:30 会場:東北大学青葉山工学部生協 DOCK

各地で、また能登半島地震で復興に取り組む人達と交流します。セミナー会場 隣接生協食堂

終了後: 地下鉄「青葉山駅」~「仙台駅」(10間隔)をご利用下さい。

タクシー 生協出口に乗り場(仙台駅まで約 3,000 円)予約は TEL.0570-06-1000(共同無線)

住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
http://www.zo-3.info

株式会社 象地域設計

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人・使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

住む人に、環境に、優しく・・・
さらに美しさをお届けする

ルナファーマー

五感で味わう心地よい空間・・・

ルナファーマーは、環境保護先進国「ドイツ」で広く普及している塗装下地壁紙。通気性や透湿に優れ、結露やカビの発生を抑えます。紙のパターンと塗装色の組み合わせで、お部屋の演出は思いのまま。模様替えやメンテナンスもそのまま塗り重ねるだけでOK。(10回程度可能) 廃材もほとんど出ないので、環境に優しい材料です。



(輸入元) 日本ルナファーマー(株)
東京都港区南青山2-9-3
青山JPビル 2階
TEL 03-5785-2750

施工店(有)ルナファーマー・テクノ
東京都練馬区関町東1-28-9
NPRビル内
TEL 03-6904-7666
TEL 03-6904-7888

※ルナファーマー・テクノの住所
が変わりました。

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL 03-3836-2011 FAX 03-3837-8450
TEL 03-3678-7471 FAX 03-3678-7472
TEL 03-3836-2017 FAX 03-3835-7380
TEL 042-584-7508 FAX 042-584-7581
TEL 072-229-2873 FAX 072-229-2874
TEL 076-257-2535 FAX 076-257-2570
TEL 082-872-1727 FAX 082-872-1728